

## 第16回日本食海外普及功労者表彰受賞者講演内容

テルマ・佑佳・清水・白石

皆様、こんにちは。本日はこのような日本という、ブラジルとは全く違う場所に来られてとても光栄に思っております。私も日本料理を始めてまさかここまで遠く、こんなに遠くまで来るとは思っておりませんでした。

私はずっとこの日本の味というのを追求しておりまして、それは私の祖父母の味というものを、そして祖父母が示してくれた日本の価値というものをずっと追求してきたおかげです。この価値というのを今後私の子どもたちにも伝えていきたいと思っております。

私の料理店「藍染」というレストランで、私は日々そこで学んでおりまして、その中で、また、さらなる日本の味というものを追求しております。

私たちのレストランは最初はとても小さなレストランでありまして、看板すらありませんでした。当時は30人から40人ぐらいを相手にできる規模だったんですけども、今では2店舗構えております。そのうち1店舗がサンパウロのジャパンハウスの中でありまして、さらに我々はデリバリー、テイクアウトのサービスも行っております。

また、日本の食品及び日本の陶器といったものを売るお店も、販売口も構えております。このようなレストランというプロセスを進めていくにつれて、また、ジャパンハウスという、日本のいわゆる文化の発信地の中にお店を構えることができることによって、日本食及び日本の文化の発信ということも始めております。

そして私は在サンパウロ日本国総領事館のシェフも務めております。こちらは5年にわたって務めております。そうやって日本の文化及び日本の食文化をブラジルで普及しておりまして、日本の食文化というのは、ブラジルのメディアにおいてもますます取り上げられておりまして、一般ブラジル人の興味もますます高まっております。

我々が今直面しておりますのは、日本でパートナーシップを非常に求めているということです。といいますのも、やはりロジスティックの面で日本とブラジルはとても離れておりますので、日本側の支援も必要としております。

ですが、この長い距離というのも、ある見方によればとても素晴らしいものでありまして、先程、野村大臣が鹿児島のご出身だと聞きましたが、私どもはブラジルで鹿児島の和牛、さらに、鹿児島のカツオ節も提供することができております。そして、ブラジル人のテイストに非常に合って、人気が高いです。さらに、キッコーマンの名誉会長であります茂木会長のキッコーマンの醤油も、実は今年の初めに、ブラジル現地で生産された醤油のリリースのイベントに私どもが関わることができました。こうしたことから、日本の食に関する文化、そして食に対するこだわりというのがブラジルでも非常に強く受け入れられているといえます。

ですが、これらの仕事で最も試されたのが、やはりコロナ禍です。コロナ禍では、様々なレストランが閉店をしてしまい、また、サプライヤーも非常に困った状況にありまし

た。

ブラジル特有の問題といいますのは、その社会問題であります、人々の飢餓です。飢餓にあえぐ人たちがいるという事実もあります。そこで、私は祖父母の価値を思い出し、この困難な時にこそそういった価値が生きてくるのではないかというふうに思いました。とりわけ、たくさんの食料が実は畑の方では余っていてまさに腐り始めているという、そういう状況の中で私はその機会を利用して、この弁当というものを作りまして貧困者に提供することにしました。まさにもったいないの精神で行っておりまして、それに加えて日本の弁当というのは非常にバランスが良く健康的で、また、おいしい食べ物だということ、現時点で、まだ継続しているんですけども、現時点で20万個のお弁当をブラジルの貧困層に配布することができまして、私どもは日本の精神を持つことができたということ、非常に喜んでおります。このような困難な時にあって、我々は日本の政府、そして日本の企業のサポートも受けました。この場を借りて改めて感謝申し上げます。以上です。ありがとうございました。